

- 1、菱垣廻船
- 2、大坂の廻船問屋
- 3、江戸時代の瀬戸内と大坂
- 4、大坂の石工と石商

## 1、菱垣廻船

### ■ 菱垣廻船とは

大坂を代表する和船。角材で菱形に組まれた垣立（かきたつ）が特徴。

江戸時代の初め、元和年間に開始。大坂と江戸を結ぶ輸送船。

実物は現存せず、なにわの海の時空館に復元船「浪華丸」が展示されている。

菱垣廻船の他に、樽廻船が大坂と江戸を結び、北前船が西廻り航路で蝦夷～大坂を結んでいた。これに加え各地の船問屋があった。

### ■ 菱垣廻船の復元船『浪華丸』の概要

「浪華丸」は、江戸時代に活躍した菱垣廻船（ひがきかいせん）を実物大に復元した復元船。千石船。千石船は米俵が約 2500 俵積める規模。当時、大阪から江戸までの航海は 2 週間～1 ヶ月かかった。船の型式は弁才船（べざいせん）。瀬戸内で発達した和船。航（かわら）の上に棚と船梁で船体を構築。全長 30m、高さ 27.5m、肩幅 7.4m、帆桁 19m、24 反帆で、千石船、長さがり、四爪碇が五基。縫釘、鋸を用いて板を削ぐ。舷側板を曲げて、水押に連結する技術。

### ■ 船の特徴・・・艫（とも）と舵（かじ）

艫とは船尾のこと。弁才船では舵や帆柱を動かしやすいように、船尾に広い空間が設けられていた。これは西洋の帆船には見られない和船独特の特徴。生活用水もここに置かれていた。船を操る大きな舵は、浅い場所では船の上に引き上げていた。

### ■ 船の特徴・・・船の装飾

船体横の囲いの下部分は垣立（かきたつ）。ここに菱形の装飾があったことから「菱垣廻船」という名前になった。この模様は菱垣廻船のトレードマークにもなっていた。

### ■ 船の特徴・・・松右衛門帆と帆摺管

帆柱の先から舳先に伸びる縄を箆緒（はずお）と言う。帆が風を受けると帆摺管に当たり、これがくるくると回って帆が箆緒と接触して傷むのを防ぐ。帆は、松右衛門帆（まつえもんぼ）と呼ばれる厚手の丈夫な木綿の帆布。浪華丸では、24 反繋ぎ合わされ、約 320 平方メートル（畳 200 畳分）の広さになる。

### ■ 碇と五尺

鉄製の「四爪碇」（よつめいかり）。千石積級の船には通常 5～7 個載せられており、重さは一番重いもので 300kg。船首部にある五尺は取り外しが可能。空荷の時は、碇の操作がしやすいように取り外し、荷物を積んでいる時は、波が入るのを防ぐため、取り付けていた。



なにわの海の時空館 2003『展示総合図録』 p.44

杉本氏一部加筆

### ■大坂への廻船の出入り

菱垣廻船・・・安治川、樽廻船・・・・伝法や安治川、北前船・・・・木津川

船番所：安治川、木津川に一か所ずつ、両川合流地点に一か所、合計三か所。積み荷の届け出。

菱垣廻船の場合、安治川橋より西に大型廻船を停泊させ、橋より東は三十石船等で、目的地に配送。

安治川の川口に菱垣廻船や樽廻船の廻船問屋が建ち並ぶ。

### ■菱垣新綿番船川口出帆図

大坂安治川口の賑わいを伝える史料。含粋亭芳豊（生年不詳～慶応二年没）。安政元年から安政五年に絵を描いた。

## 菱垣新綿番船川口出帆図



なにわの海の時空館 2003『展示総合図録』 p.41

川の両岸には江戸へ荷物を運ぶ廻船問屋(菱垣廻船問屋・樽廻船問屋)の蔵が建ち並んでいた。  
物資の集散場であった大坂の代表的商業が廻船問屋。

画面中央から下半分・・・安治川の安治川橋より西側区域を、北から見た様子

画面上方・・・・目印山（天保山）とその沖の菱垣廻船（新綿番船）

新綿番船とは菱垣廻船の重要な積み荷であった繰綿を江戸へ運ぶレース。天保山発、浦賀まで。繰り綿の相場が決まるその年初めの江戸積み廻船を、レースに仕立てたもの。

天保山から浦賀まで、最速 50 時間（安政 6 年）。

## 沖の菱垣廻船

現在の港と違い、岸壁が無いので船は「沖係り」といって碇を降ろして停泊していた。

大型廻船は安治川大橋より河口部に停泊し、荷物は小船に積み替えて市中へ運ばれた。幕末の廻船は千八百石積みが標準であった。

川の兩岸の蔵 川の兩岸には江戸へ荷物を運ぶ廻船問屋の蔵が建ち並んでいた。「菱垣問屋九軒」「樽問屋八軒」「樽西之宮組六軒出店」が示されている。蔵にはそれぞれの印が付けられ、どの廻船問屋の蔵か一目で分かるようになっていた。

## 2、大坂の廻船問屋

### ■出現期

元和5年(1619) 堺商人が大坂から江戸への商品廻送を開始。

寛永元年(1624) 大坂北浜で泉屋が江戸積み廻船問屋を始める。

寛永4年(1627) 江戸積み廻船問屋～菱垣廻船問屋が誕生。

この時の問屋が、富田屋、大津屋、顕屋、塩屋、小堀屋。

富田屋は和歌山富田浦、小堀屋は江戸から。

船は所有せず問屋業のみ。船と船頭・水手は別。

### ■買物案内記にみる廻船問屋の数の変化

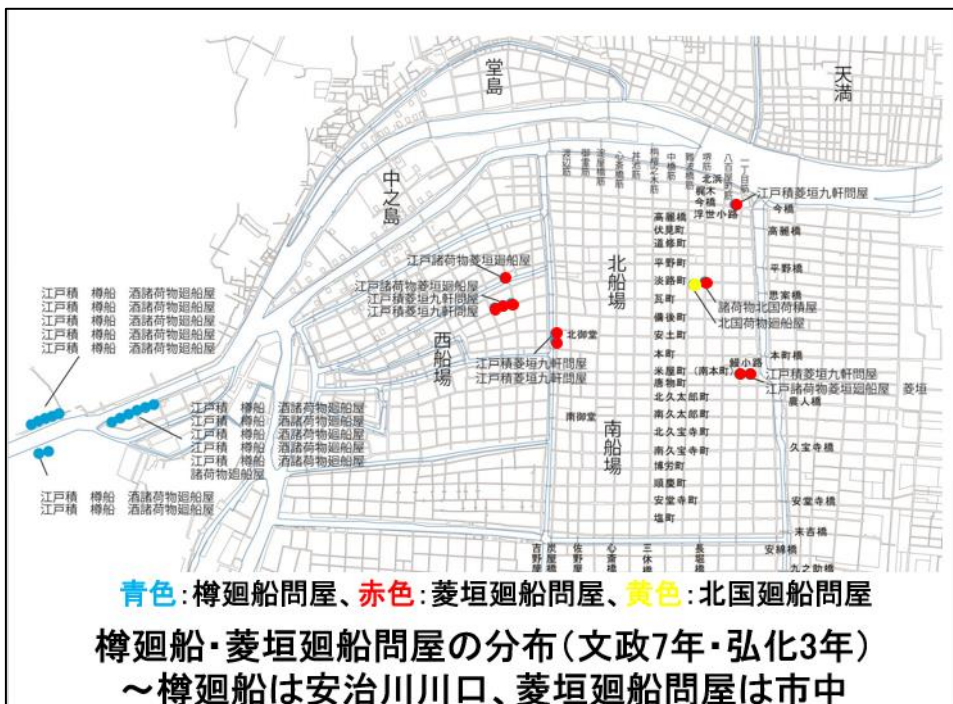
買物案内記にみる菱垣廻船、樽廻船の廻船問屋数の変化

元禄頃(1696)には樽廻船問屋は無い。

樽廻船問屋は延享頃(1748)には出現しており、安永頃(1777)には菱垣廻船問屋と同じくらいの数になる。

文政頃(1824)には買物案内記に樽廻船問屋は記されず。

弘化頃(1846)に樽廻船問屋の方が圧倒的に優勢になる。



資料作成：杉本厚典氏

|                      | 菱垣廻船<br>問屋 | 樽廻船問<br>屋 | 総計 |
|----------------------|------------|-----------|----|
| 難波丸 元禄 9 年(1696)     | 6          |           | 6  |
| 難波丸綱目 延享 5 年(1748)   | 10         | 5         | 15 |
| 難波丸綱目 安永 6 年(1777)   | 9          | 8         | 17 |
| 商人買物独案内 文政 7 年(1824) | 16         | —         | 16 |
| 浪花商工名家集 弘化 3 年(1846) | 3          | 12        | 15 |
| 総計                   | 44         | 25        | 69 |

#### ■菱垣廻船問屋と樽廻船問屋

元和 5 年（1619） 堺商人が大坂から江戸への商品廻送を開始。

寛永 4 年（1627） 江戸積み廻船問屋～菱垣廻船問屋が誕生。

元禄 7 年（1694） 江戸で十組問屋が成立。専用船として菱垣廻船。やがて酒荷のみの廻船が誕生。

享保 15 年（1730） 十組問屋から酒問屋仲間が脱退。

明和 7 年（1770） 七品に限り両積み可能。

安永元年（1772） 樽廻船問屋株が公認。菱垣廻船と樽廻船の積み分け規則化。

文化・文政 砂糖の一部荷主が樽廻船を利用。菱垣／樽廻船の積み荷の区分が一層厳しくなる。

天保 12 年（1841） 株仲間解散～荷主は自由に廻船問屋を選ぶことができるようになる。

弘化 3 年（1846） 九店仲間による江戸積み廻船（九店廻船問屋）再興。しかし菱垣廻船老朽化してしまっており樽廻船を菱垣仕立てに。

### 3、江戸時代の瀬戸内と大坂

■三宅家文書（瀬戸内歴史民俗資料館所蔵）。直島の庄屋を務めた三宅家の江戸時代の諸記録。難船手形 500 通等、当時の瀬戸内の様子を知るための重要資料。上村雅洋氏の文献等で詳細に紹介。

上村雅洋 1986「近世の米穀流通と廻船」『大阪大学経済学』Vol. 35 No. 4, pp. 72-101

上村雅洋 1986「近世瀬戸内の商品流通」(1)・(2) 滋賀大学経済学会『彦根論叢』240 号・241 号、pp. 47-77、pp. 77-107

#### ■正徳四年 大坂移出入商品表

大坂へ輸入：米、菜種、材木、大坂から輸出：菜種油、縞木綿、長崎下り銅

#### ■大坂にもたらされたものとそれらの加工

米・・・蔵米として西国、日本海側の諸藩による大坂廻送。幕府の天領の米は基本的に江戸へ廻送。蔵米を元に米切手が発行され、それを扱う米市場が成立。

材木・薪炭・・・各地からもたらされ、都市で消費。

砂糖・・・長崎からの輸入に頼っていたが、鹿児島黒砂糖、四国・泉州の砂糖などもたらされる。

銅・・・別子銅山（伊予）、阿仁鉱山（出羽）等から粗銅がもたらされ、それを吹きわけて、鉛、銀、銅を分取していた。長堀の和泉屋、炭屋町の大坂屋が大手。それ以外にも小規模な吹き屋が東横堀沿いに点在。

菜種・・・大坂近郊の農村から大坂へ送られ油に加工。

綿・・・大坂近郊の農村で栽培、繰り綿、木綿に加工。

## 正徳四年 大坂 移出入 商品表 (なにわの海の時空館パネル)

- ・大坂への輸出入金額を示した表。
- ・米、菜種、材木が輸入のトップ3
- ・銅、縞木綿、菜種油が輸出のトップ3

なにわの海の時空館 2003 『展示総合図録』、p.38

### 1 積み荷物の行き先

1、大坂が三分の二を占める。2、伊予、高松、播磨など、瀬戸内地域が次ぐ。3、江戸行きもある。

| 行き先 | 廻船数 | 比率    | 行き先  | 廻船数 | 比率   | 行き先  | 廻船数 | 比率   |
|-----|-----|-------|------|-----|------|------|-----|------|
| 大坂  | 144 | 67.9% | 赤穂   | 3   | 1.4% | 坂出   | 1   | 0.5% |
| 上方  | 11  | 5.2%  | 阿波   | 2   | 0.9% | 小豆島  | 1   | 0.5% |
| 兵庫  | 10  | 4.7%  | 安芸   | 2   | 0.9% | 長崎   | 1   | 0.5% |
| 伊予  | 6   | 2.8%  | 岡山   | 2   | 0.9% | 尼崎   | 1   | 0.5% |
| 高松  | 5   | 2.4%  | 下関   | 2   | 0.9% | 肥前   | 1   | 0.5% |
| 播磨  | 5   | 2.4%  | 備後福山 | 2   | 0.9% | 備後尾道 | 1   | 0.5% |
| 江戸  | 4   | 1.9%  | 岸和田  | 1   | 0.5% | 備前   | 1   | 0.5% |
| 堺   | 3   | 1.4%  | 御影   | 1   | 0.5% | 複数個所 | 2   | 0.9% |
|     |     |       | 合計   |     |      | 合計   | 188 | 89%  |

### 2 積み荷の出発地

| 出発地 | 艘  | 割合    | 出発地 | 艘 | 割合   | 出発地 | 艘 | 割合   |
|-----|----|-------|-----|---|------|-----|---|------|
| 伊予  | 49 | 14.8% | 薩摩  | 8 | 2.4% | 筑後  | 2 | 0.6% |
| 安芸  | 32 | 9.6%  | 筑前  | 8 | 2.4% | 陸奥  | 2 | 0.6% |
| 豊後  | 27 | 8.1%  | 備後  | 7 | 2.1% | 壱岐  | 1 | 0.3% |
| 讃岐  | 21 | 6.3%  | 石見  | 6 | 1.8% | 越前  | 1 | 0.3% |
| 周防  | 21 | 6.3%  | 肥後  | 6 | 1.8% | 越中  | 1 | 0.3% |
| 肥前  | 17 | 5.1%  | 加賀  | 4 | 1.2% | 岸和田 | 1 | 0.3% |
| 日向  | 16 | 4.8%  | 出雲  | 4 | 1.2% | 堺   | 1 | 0.3% |
| 備中  | 16 | 4.8%  | 播磨  | 4 | 1.2% | 種子島 | 1 | 0.3% |
| 出羽  | 13 | 3.9%  | 松前  | 3 | 0.9% | 伯耆  | 1 | 0.3% |
| 長門  | 13 | 3.9%  | 対馬  | 3 | 0.9% | 兵庫  | 1 | 0.3% |

|    |    |      |    |   |      |    |   |      |
|----|----|------|----|---|------|----|---|------|
| 備前 | 12 | 3.6% | 豊前 | 3 | 0.9% | 北国 | 1 | 0.3% |
| 大坂 | 11 | 3.3% | 越後 | 2 | 0.6% |    |   |      |
| 土佐 | 11 | 3.3% | 紀伊 | 2 | 0.6% |    |   |      |

③ 出発地によって商品に違いがあるかどうか？

伊予から大坂へ～米、薪炭、木材、安芸から大坂へ～米、薪炭、紙、鉄、牡蠣、出羽から大坂へ～米、木材、松前・蝦夷地から大坂へ～昆布、鯨、数子

松前から米は無い。稲作不可能。昆布、鯨、数の子といった北海の幸。昆布と鯨・・・合わせダシの文化。出会いもの。

④ 小豆島、直島、大坂の産物

小豆島から運ばれたもの

| 年号 | 年  | 積荷地   | 目的地 | 運搬物     | 船籍   | 船頭種類 |
|----|----|-------|-----|---------|------|------|
| 文化 | 11 | 讃岐小豆島 |     | 薪       | 備前赤崎 | 直乗船頭 |
| 文化 | 3  | 讃岐小豆島 |     | 松葉      | 備前宇野 | 沖船頭  |
| 天保 | 8  | 讃岐小豆島 |     | 醤油 19 挺 | 讃岐庵治 | 直乗船頭 |

直島から運ばれたもの

|    |    |      |      |        |      |      |
|----|----|------|------|--------|------|------|
| 宝永 | 元  | 讃岐直島 |      | 埴土     | 備前北方 | 直乗船頭 |
| 元文 | 2  | 讃岐直島 | 伊予銅山 | 米      |      |      |
| 延享 | 3  | 讃岐直島 |      | 木      | 讃岐   | 直乗船頭 |
| 寛延 | 3  | 讃岐直島 |      | 塩木     | 備前宇野 | 沖船頭  |
| 文政 | 13 | 讃岐直島 |      | 松葉     | 讃岐直島 | 直乗船頭 |
| 文政 | 5  | 讃岐直島 | 上方   | 魚      | 播磨明石 |      |
| 元治 | 元  | 讃岐直島 |      | 醤油 4 樽 | 讃岐高田 | 直乗船頭 |

大坂から運ばれたもの

|    |   |    |      |                      |        |      |
|----|---|----|------|----------------------|--------|------|
| 宝永 | 4 | 大坂 | 肥前   | 家具、櫃、仏具、人形、唐笠、鍋、油樽、他 | 肥前大堂本津 | 直乗船頭 |
| 宝永 | 4 | 大坂 | 備後福山 | 小間物、戸障子、材木他          | 備後福山   | 直乗船頭 |
| 正徳 | 2 | 大坂 | 安芸   | 旦那方用事荷物              | 安芸     | 沖船頭  |
| 正徳 | 5 | 大坂 |      | 方々之荷物                | 備中玉島   | 沖船頭  |
| 寛延 | 2 | 大坂 | 備後福山 | 京都呉服地                | 備後福山   |      |
| 宝暦 | 2 | 大坂 |      | 鍋釜、蠟燭、油、紙、古手、砥石、陶器、他 | 讃岐高松   |      |
| 寛政 |   | 大坂 | 伊予松山 | 糖 300 俵              |        |      |
| 寛政 |   | 大坂 | 伊予   | 送物                   |        |      |
| 天保 |   | 大坂 | 伊予   | 酒 15 挺               |        |      |

|    |    |    |                                 |  |
|----|----|----|---------------------------------|--|
| 弘化 | 大坂 | 下関 | 瀬戸物 89 俵、備後表 5 丸、<br>羽釜、七輪台、苧、他 |  |
|----|----|----|---------------------------------|--|



三宅家文書からも米木材が多いことがうかがえた。薪炭は金額的には低いが、多くを必要としたはず。

なにわの海の時空館 2003『展示総合図録』、p. 38  
杉本氏一部加筆

5 船籍からみた特徴

大坂船籍のものは、大坂到着船大型船。米・木材を運送。遠隔地の輸送。沖船頭（雇われ船頭が多い）。

小豆島船籍

| 年号 | 年 | 積荷地  | 目的地 | 運搬物      | 船籍    | 船頭種類 |
|----|---|------|-----|----------|-------|------|
| 正徳 | 3 | 肥前平戸 |     | 干鰯 161 俵 | 讃岐小豆島 | 直乗船頭 |
| 文化 | 2 | 周防大島 |     | 干鰯 186 俵 | 讃岐小豆島 | 直乗船頭 |

塩飽船籍

|    |    |       |    |                 |      |      |
|----|----|-------|----|-----------------|------|------|
| 元禄 | 3  | 備前    |    | 魚               | 讃岐塩飽 |      |
| 宝永 | 5  | 石見温泉津 | 江戸 | 米 977 石 4 斗 7 升 | 讃岐塩飽 | 直乗船頭 |
| 享保 | 8  | 出羽野代  | 大坂 | 杉材木             | 讃岐塩飽 | 沖船頭  |
| 寛政 | 10 | 伊予宇和島 |    | 薪木 30 石目        | 讃岐塩飽 | 直乗船頭 |
| 天保 | 5  | 伊予宇和島 |    | 薪 400 石目        | 讃岐塩飽 | 直乗船頭 |

直島船籍

|    |    |      |      |       |      |      |
|----|----|------|------|-------|------|------|
| 享保 | 10 | 肥前平戸 |      | 塩鮪、塩鯛 | 讃岐直島 | 直乗船頭 |
| 寛延 | 2  | 備前碁石 |      | 海老    | 讃岐直島 | 直乗船頭 |
| 寛政 | 4  | 讃岐   | 大坂   | 魚     | 讃岐直島 | 沖船頭  |
| 文政 | 13 | 讃岐直島 |      | 松葉    | 讃岐直島 | 直乗船頭 |
| 安政 | 2  | 讃岐   | 摂津尼崎 | 活蛸    | 讃岐直島 | 直乗船頭 |

大坂船籍

|    |    |      |    |          |      |     |
|----|----|------|----|----------|------|-----|
| 元禄 | 8  | 陸奥   | 大坂 | 米 1000 俵 | 摂津大坂 | 沖船頭 |
| 元禄 | 16 | 出羽野代 | 大坂 | 保太木、杉角他  | 摂津大坂 | 沖船頭 |

|    |    |       |    |                            |      |      |
|----|----|-------|----|----------------------------|------|------|
| 元禄 | 16 | 出羽野代  | 大坂 | 杉保太木                       | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 元禄 | 15 | 出羽野代  | 大坂 | 保太木 1400 挺                 | 摂津大坂 |      |
| 宝永 | 2  | 出羽酒田  | 大坂 | 米 827 俵                    | 摂津大坂 |      |
| 宝永 | 6  | 出羽津軽  |    | 榎寸法 2438 挺                 | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 正徳 | 5  | 出羽秋田  | 大坂 | 米 1020 石                   | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 正徳 | 3  | 出羽酒田  | 大坂 | 米 642 石 8 升 9 合            | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 享保 | 2  | 出羽秋田  | 大坂 | 米 2861 俵                   | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 享保 | 5  | 越後    | 大坂 | 米                          | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 享保 | 18 | 越前三国  | 大坂 | 米                          | 摂津大坂 | 直乗船頭 |
| 享保 | 5  | 筑後瀬高川 | 大坂 | 米                          | 摂津大坂 |      |
| 元文 | 元  | 北国    | 大坂 | 米                          | 摂津大坂 |      |
| 宝暦 | 8  | 越中魚津  | 大坂 | 米 1599 石 7 斗 5 升           | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 文化 | 4  | 土佐御崎  |    | なかし木 700 石目                | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 文政 | 10 | 肥後高瀬  | 大坂 | 米 1569 石 9 斗 2 升           | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 文政 | 8  | 伊予宇和島 | 大坂 | 炭、薪他                       | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 天保 | 14 | 日向延岡  |    | 檜木 100 石目、流木 100 石目、炭 63 俵 | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 嘉永 | 5  | 松前江差  | 大坂 | 数子・鯨・昆布 600 石目             | 摂津大坂 | 沖船頭  |
| 文久 | 2  | 肥後高瀬  | 大坂 | 米 1105 石                   | 大坂中島 | 沖船頭  |

①～⑤

上村雅洋 1986 「近世の米穀流通と廻船」『大坂大学経済学』Vol.35 No.4,pp.72 101

上村雅洋 1986 「近世瀬戸内の商品流通」(1)・(2)滋賀大学経済学会『彦根論叢』240号・41号、pp.47 77、pp.77 107

上記論文掲載の表をもとに杉本氏作成

#### 4、大坂の石工と石商

典型的な加工輸出産業。産地から材料を輸入し、大坂で加工し、各地へ輸出。

大坂には石が無く、他の地域からもたらされた。

花崗岩（六甲、小豆島、庵治石）、砂岩（和泉石）、粘板岩（高島石）、凝灰岩（豊島石）  
石材は大坂で加工。重量物なので堀川に面した場所に工房があった。

#### ■大坂石

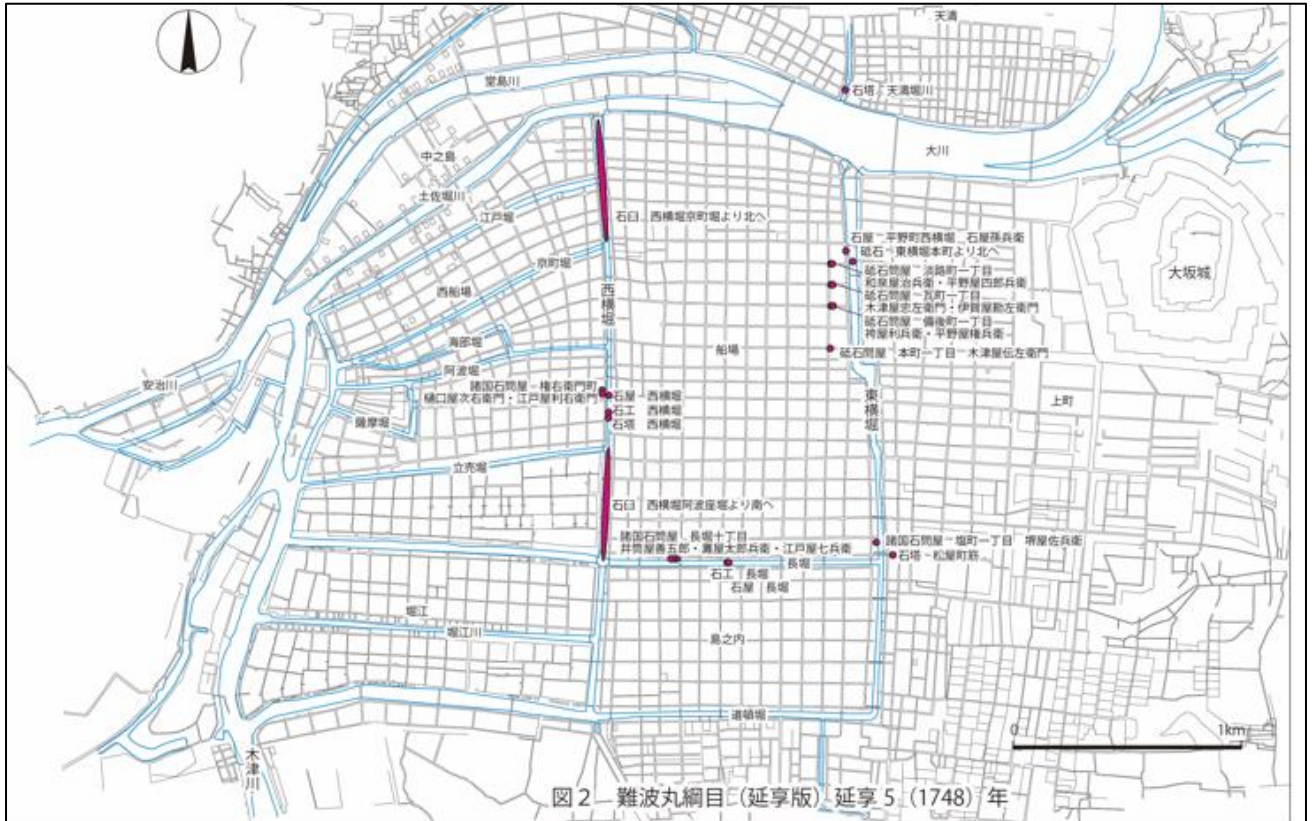
大坂は石の産地ではないが、それを加工して全国へ搬出するため、大坂の特産品で大坂石とされていた。

伏木浦入津諸品 御口銭取立定帳 石浦屋甚助（廻船問屋） 海事史料叢書第四巻 p.329

加賀湾の伏木浦に入港した商船にかかる、商品品目ごとの税金のリスト。



大坂石として鳥居、井戸石、地蔵などの製品が見られる。大坂石以外に越前石、加州切石が見られる。大坂石が製品であるのに対して、越前石や加賀切り石は素材・半製品であった。この加工をしていたのが炭屋町など。西横堀と長堀が交差する四ツ橋付近。重量物であり他国から舟運で持ち運ばれるため、堀川の近く。そこで製品化され、また運河を用いて諸国へと廻漕（石工のリスト）。銅吹きと類似した状況。



## 延享五年(1748)の石工・石商の分布

資料作成：杉本厚典氏

### ■石を運んだ船

団平船 (『和漢船用集』)

三宅家文書には台場へと廻漕される石材の名前あり。石船を利用か？

海事史料叢書第8巻、二茶屋浦文書「大坂石問屋ヨリ且平船瀬取之儀ニ付返答書」

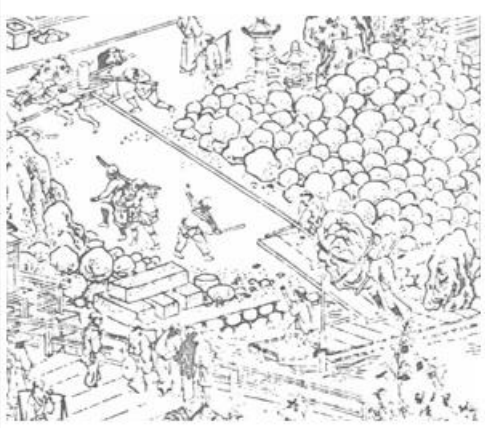
工楽松右衛門の考案した各種の石船。大蔵永常『農具便利論』に掲載。石船、石釣り船。

### ■摂津名所図会より石屋浜

轆轤を用いて4人がかりで石材を上げる様子、石材を狛犬、臼、井戸杵、灯籠などに加工する様子等。  
『滑稽浪花名所』から観光名所の一つとなっていたことがうかがえる。



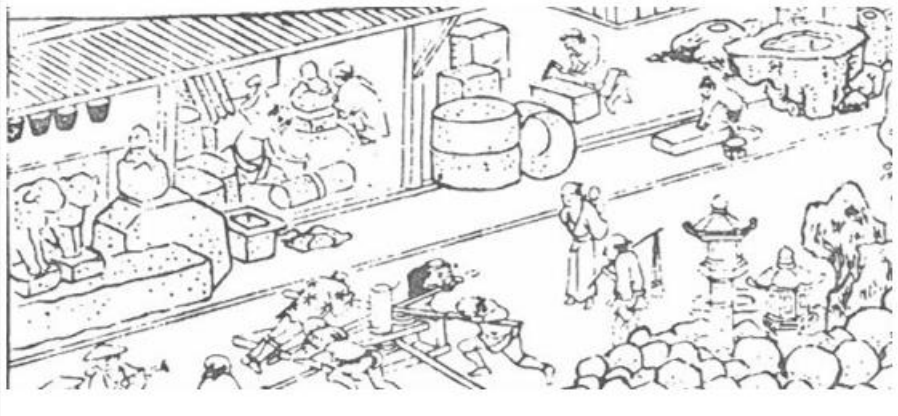
資料作成：杉本厚典氏



### 『摂津名所図会』より長堀石浜

- 轆轤を用いて4人がかりで石材を上げる様子(左)
- 石材を狛犬、臼、井戸杵、灯籠などに加工する様子(下)。

『摂津名所図会 卷之四』p. 47



『日本名所風俗図絵 10、大阪の巻』、p. 147

大坂を代表する廻船～菱垣廻船。

菱垣廻船を用いた運送会社として菱垣廻船問屋。大坂と江戸を結んでいた。

三宅家文書からは様々な廻船が活躍していることがうかがえた。

大坂に様々な素材を運び込み、大坂から様々な品を各地に届ける役割を瀬戸内の廻船が担っていた。

多くの廻船によって大坂の物流が支えられていたことを、あらためて浮き彫りにすることができた。

#### 参考文献

上村雅洋 1986 「近世の米穀流通と廻船」『大阪大学経済学』 Vol.35 No.4,pp.72-101

上村雅洋 1986 「近世瀬戸内の商品流通」(1)・(2) 滋賀大学経済学会『彦根論叢』240号・241号、pp.47-77、pp.77-107

柚木学 2001 『近世海運の経営と歴史』 清文堂出版株式会社

なにわの海の時空館 2003 『なにわの海の時空館 展示総合図録』

なにわの海の時空館 2006 『浪華商人船レース めん・もめんとその流通』

佐竹昭 2012 『近世瀬戸内の環境史』 吉川弘文館

中川すがね 2015 『近世の瀬戸内の湊と渡海船』 科学研究費補助金（基盤研究（C）2011年4月28日～2015年3月31日）近世瀬戸内の渡海船の研究—その存在形態と商品流通・旅客輸送に果たした役割の解明— 研究課題番号：23520846

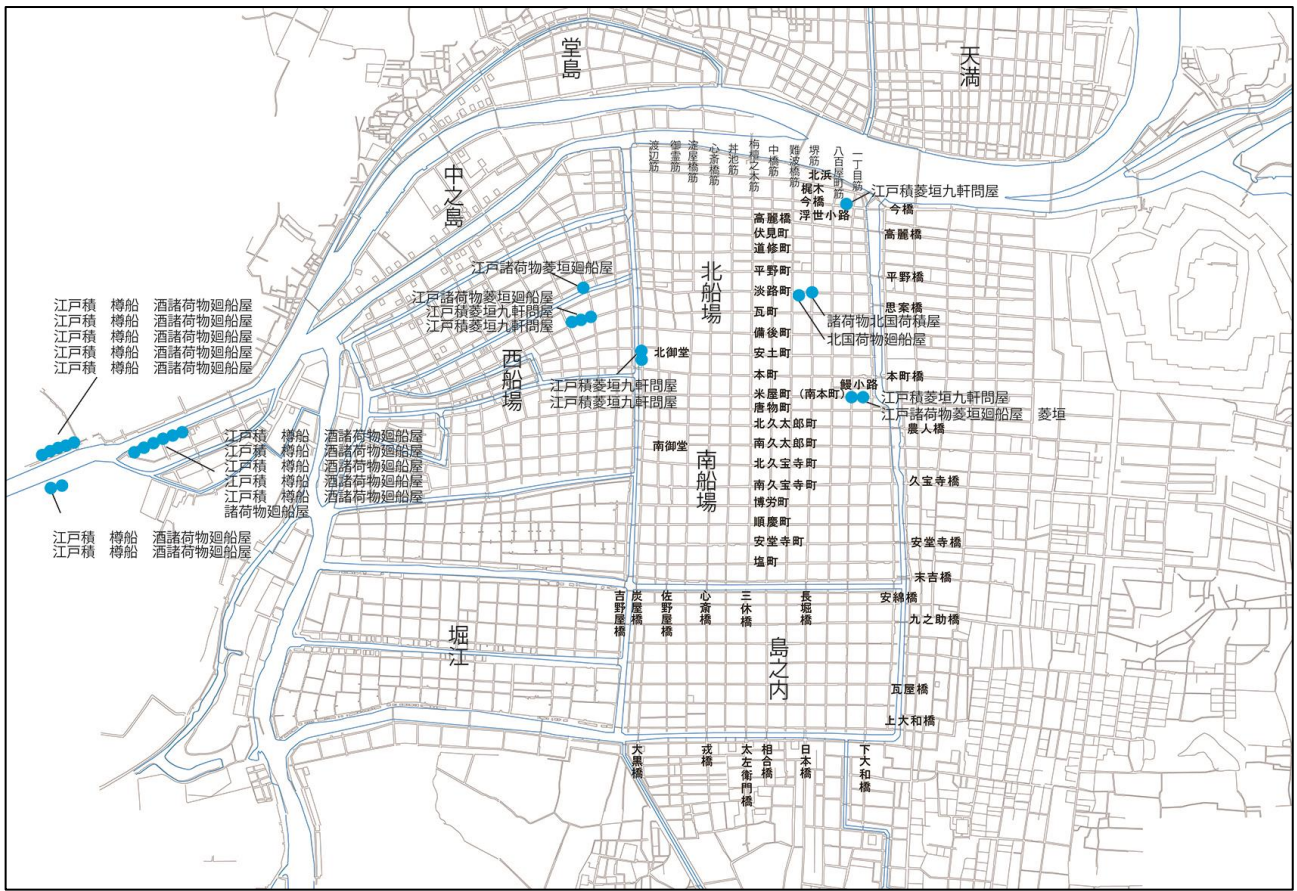
小嶋良一 2016 「復元された菱垣廻船「浪華丸」の意義について」『日本船舶海洋工学会講演会論文集』第22号、pp.31-36

上村雅洋

1986 「近世の米穀流通と廻船」『大阪大学経済学』 Vol.35 No.4,pp.72 101

上村雅洋

1986 「近世瀬戸内の商品流通」(1)・(2) 滋賀大学経済学会『彦根論叢』240号・241号、pp.47 77、pp.77 107



大坂の廻船問屋の分布



## 講演内容まとめ

杉本氏作成配布用資料に一部発表用画像を加えさせていただきました。

山西輝美

アンケートより、ご感想をいただきました。

- 各地から運ばれた石が大坂石と言われていたこと
- 瀬戸内の歴史、興味ぶかかったです。とても丁寧なご説明ありがとうございました。
- 杉本氏講演は大坂のことがよく分かった
- 大阪の石屋さんの話、知らないことばかりで大変おもしろかった。大阪のどのあたりで作られていたのかまで分かり見てみたいという思いも湧いた。
- 船の作りの詳細が分かって面白かった。船があらしにあった時、残った品を浜で売る共同海損の話も興味深かった。直島の大三宅の資料が役に立ってうれしい。
- 直島の昔の流通、大変面白く感じました。
- 廻船の状況が良くわかって楽しかった。
- 前から疑問に思っていた廻船の分類がよく分かった。
- 杉本先生のお話では、難破した船から積み荷を調べるというのは、大変おもしろかったです。松葉が資材として流通していたことを初めて知りました。
- 直島に廻船が泊まる話は聞いていいましたが、実際にどんな物がどこに運ぶことができていたのかよく分かりました。
- 廻船から瀬戸内と大坂の具体的なつながりが見えた。